

## 2016年度の活動を振り返って



ホーチミン日本商工会会長  
**前野 浩二**

2016年度のJBAHは「One for All, All for One」をスローガンに掲げました。これは皆さんよくご存知の通り、「1人はみんなのために、みんなは1人のために」というラグビーの基本精神を示した言葉です。会員一人ひとりが声を上げることで、商工会という組織が動く。そして、一人ひとりの会員を商工会という組織がサポートする。この両輪がかみあうことで、すべての会員の方に「商工会に入ってよかった」と感じていただけるようにしたい。そう願って、役員一同、この一年間活動してまいりました。

この理念を実現するため、いくつかの新しい試みに取り組みました。そのうちの1つは盆踊りとマラソン大会です。今までも、ゴルフコンペやテニス大会など、会員相互の親睦を深めるためのスポーツイベントは開催してきました。しかし「もっと幅広く、日越誰でも参加できるイベントはないか」と考えて出てきたのが盆踊りとマラソンです。11月のジャパンベトナムフェスティバルの中で共同開催となりました、第1回目の盆踊り大会は成功裏に終了。また12月に開催されたマラソン大会も、スポーツイベントとして商工会史上最多となる1,000人を超える方々にご参加いただきました。こうした日本人同士の輪、そして日越交流の輪が今後も継続されることを祈っております。

マンスリーレポートも、今年から始めたものの1つです。本年度の方針の1つに掲げた「会員主体・全員参加型の商工会運営」を実現するには、商工会の活動が、会員の皆様にきちんと伝わっていることが必須です。これまでもメール、ウェブサイトといったツールはありましたが、「もう1歩、踏み込んだ形で会員の皆さんに情報をお届けしたい」と考え、直近の一ヶ月の商工会の活動、近々に予定されている行事などを、1つのメールにまとめて、毎月1回配信してまいりました。

我々の事業環境・生活環境の改善を推進する場である、ホーチミン市人民委員会とのラウンドテーブル会議においては、今年も大きな成果をあげました。本年度、会員企業の皆様から頂いた要望は、昨年172項目を大きく上回る228項目。これを最終的に22項目の要望に絞り込み、ホーチミン市人民委員会各部署と議論を行いました。このうち14項目について「完全に解決または大幅な改善」という成果を得ています。また昨年出した38項目の要望についても、23項目が「完全に解決または大幅な改善」という結果でした。

更にロンアン・ビンズン・ドンナイ・バリアブントウの周辺各省との対話集會も、地域部会の皆様のご尽力により、定着して参りました。

紙幅の制限のため触れることはできませんが、各委員会、各部署においても、商工会活動をより意義あるものにする取り組みが、多数行われました。ご尽力頂いた皆様に御礼を申し上げます。

2017年度には、ベトナム国内にある3つの「日本商工会」を「日本商工会議所」へと名称変更することが議論されています。これは単なる名称の変更ではなく、日本商工会がより一歩大きなステージに上がることの象徴でもあります。JBAHにとって画期的な年になることでしょう。

最後になりましたが、いつも商工会活動にご理解とご協力をいただいております総領事館をはじめとする関係諸機関の皆様、そして大林事務局長以下、事務局の皆様にご心より御礼を申し上げます。私事になりますが、ベトナムでの赴任が6年になり、この4月に帰国することとなりました。ベトナム駐在最後の年に、会長という貴重な経験をさせていただいたことで、かつてない思い出深い一年となりました。帰国後も、JBAHおよび会員企業の皆様のご発展を、日本の空よりお祈りしております。この1年間、ありがとうございました。